

サン = シモンの自筆書簡 3 通

川 又 祐

1. はじめに
2. サン = シモンのラングレ宛て自筆書簡
3. サン = シモンのリウエ宛て自筆書簡
4. サン = シモンのボマール宛て自筆書簡
5. おわりに

1. はじめに

日本大学図書館法学部分館は紀伊國屋書店を通じて、1990年にサン = シモン・コレクションをメリオン・ブック社 (Merrion Book Co. Wickmere House, Wickmere, Norfolk NR11 7JE, England) から購入した。筆者は近年、日本大学図書館法学部分館が所蔵するこのサン = シモン・コレクションの整理に携わり、コレクションに含まれる資料の書誌情報公開に参画した。コレクション整理の結果は法学部分館ウェブページ上で公開されている⁽¹⁾。そしてサン = シモンの草稿類に関しては、カタログ “Nihon University College of Law Library’s Saint-Simon Collection. Manuscripts of Saint-Simon” も公開されている。

法学部分館そして筆者が所有しているサン = シモンの書簡は以下表 1 の通りである (S-S 345、346、362は図書館請求記号である)。①②③はウェブで公開されている⁽²⁾。筆者は、2019年に④⑤をロンドンの古書店「リチャード・M. フォード社 (Richard M Ford Ltd)」から入手した。この④⑤はすでに筆者によって検討されている (川又、2020)。その後、

2021年に⑥をミラノの古書店「ポントレモリ (Libreria Antiquaria Pontremoli SRL)」から、2022年には⑦をパリの書籍商「ピノー」(Librairie Pinault) から、⑧そしてサン＝シモンの自筆原稿⑨をパリのギャラリー「アーツ・アンド・オートグラフィス」(Arts & Autographs) からそれぞれ入手した。残念ながらこの自筆原稿⑨にサン＝シモンの署名はない。今回は⑥から⑧のサン＝シモンの自筆書簡3通を取り上げる。

表1 サン＝シモン関連資料

| | | |
|---|--|---------|
| ① | [Letter, Paris 22 Vend[é]miaire] an 10, to] Citoyen Rihouet / St-Simon | S-S 345 |
| ② | [Letter, ca. 1808-1810, to] M. Dubois / St-Simon | S-S 346 |
| ③ | [Letter, ca. 1813, to Dr. Charles Bougon / Saint-Simon] | S-S 362 |
| ④ | [Letter, le 12 Avril 1792, to] Monsieur Perregaux Banquier / Saint-Simon | 川又蔵 |
| ⑤ | [Letter, le 23 f[loré] al. an 7, to] Citoyen Rihouët / St-Simon | 川又蔵 |
| ⑥ | [Letter, [ce 12] to] Madame Lingré a S ^t Chaumont / St-Simon | 川又蔵 |
| ⑦ | [Letter, ce 29 vendémiaire, to] Citoyen Rihouët / St-Simon | 川又蔵 |
| ⑧ | [Letter to] Monsieur Bommairt / St-Simon | 川又蔵 |
| ⑨ | Autograph piece, business letter [of Saint-Simon] | 川又蔵 |

2. サン＝シモンのラングレ宛て自筆書簡

本書簡⑥は、上述のように2021年6月にイタリア・ミラノの古書店「ポントレモリ (Libreria Antiquaria Pontremoli SRL)」から入手した。本書簡の書誌は表2の通りである。

表2 サン＝シモンのラングレ宛て自筆書簡⑥の書誌

| | |
|----------|---|
| Title | [Letter, [ce 12] to] Madame Lingré a S ^t Chaumont / St-Simon |
| Author | Saint-Simon, Claude Henri de Rouvroy (1760-1825) |
| Created | s. l. |
| Year | s. a. [ce 12] |
| Language | French |
| Medium | 1 sheet ([1] p.) ; 15.5×18.5cm. folded 15.5×9.3cm Address:7.8×4.5 cm |
| Notes | Holograph signed. |

本書簡はサン＝シモンが友人のラングレ婦人 (Madame Lingré) に宛てた

もので、用紙は二つ折り、全4ページのうち1ページに本文9行、サン＝シモンの署名、その下に年月なしの日付 (ce 12, 12日) が書かれている。なお、テープ跡と思われるものが2か所ある。用紙にウォーターマークはない。

本書簡の画像が図1である。書簡は1枚の用紙で、封をするために3回折られている。その折り目に従って8区画に分け、本文、宛名などの位置を示したのが図2である。

図1 ラングレ宛て自筆書簡画像

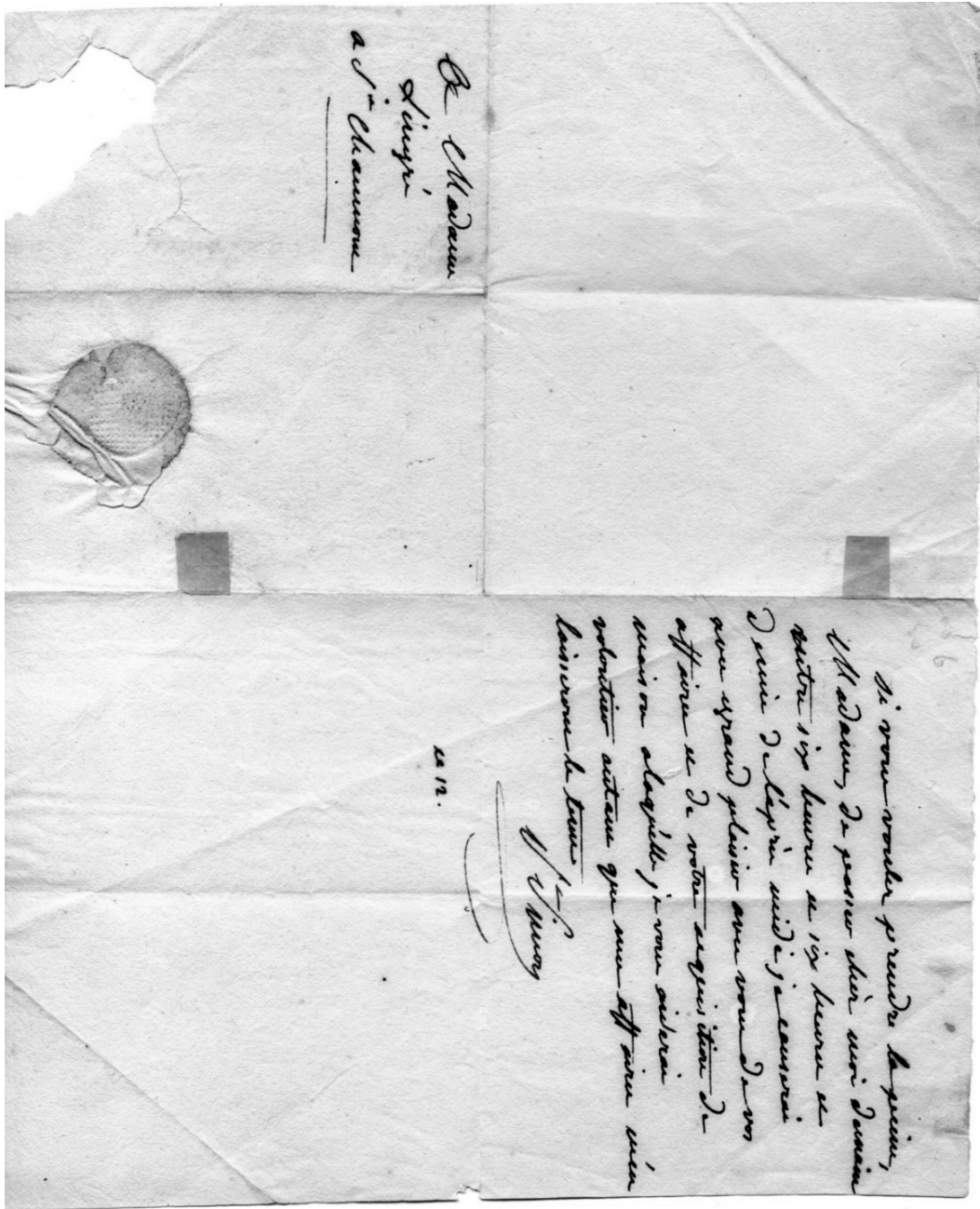
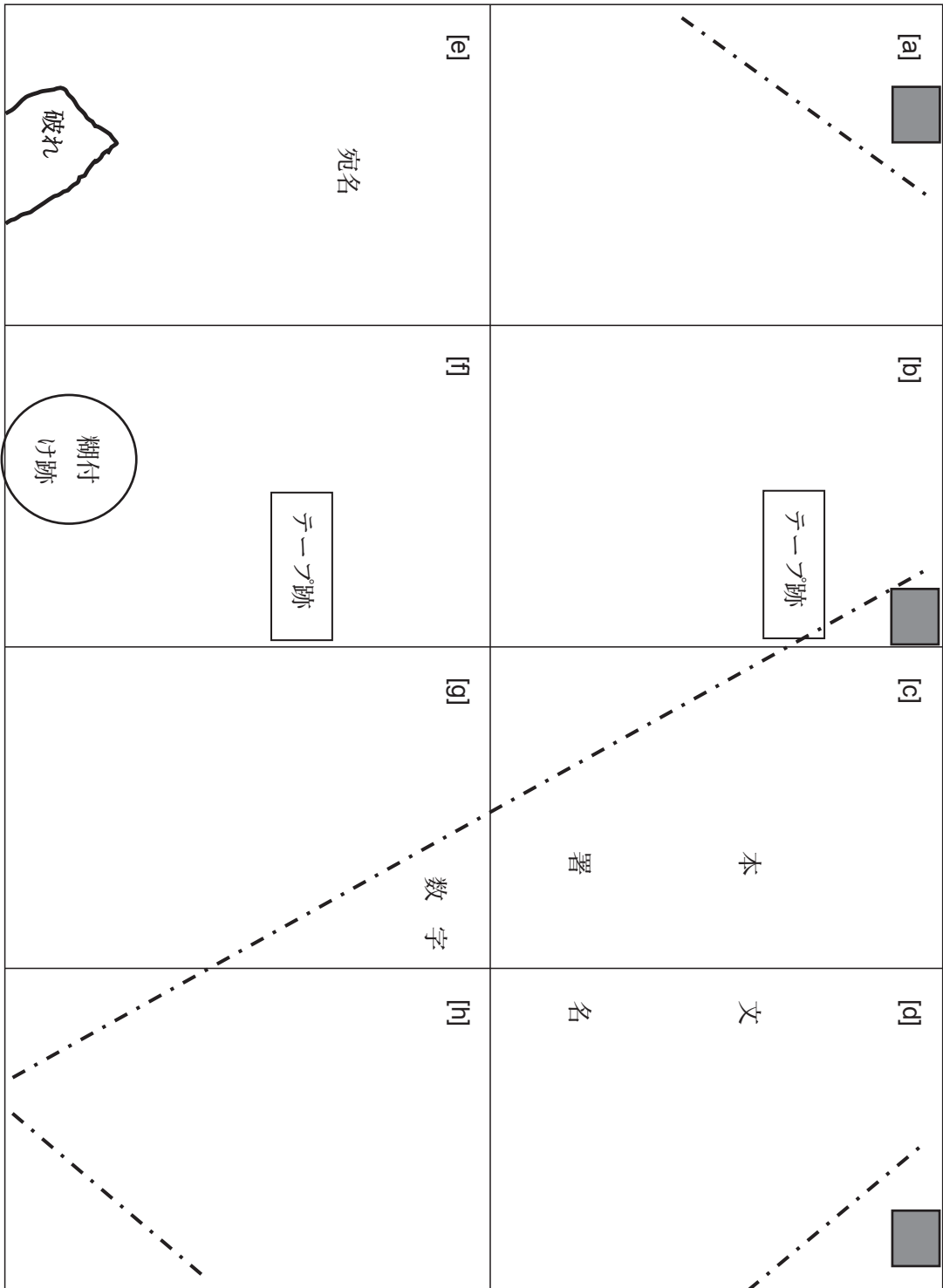


図2 ラングレ宛て自筆書簡の折り目と本文、宛名の位置

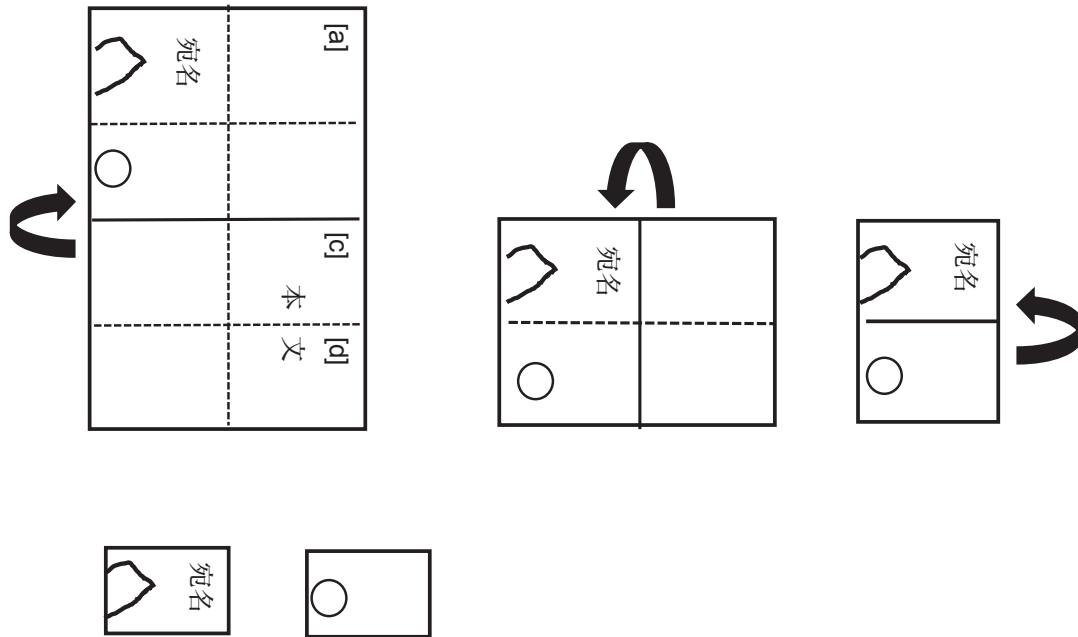


サンシモンの自筆書簡3通(川又)

五三(一四二)

次に折り目から推測される封緘方法を示したものが図3である。(図2の一点鎖線は封緘には関係ない、後世の誰かによる折り目と思われる。裏面には、表面とは異なる種類のテープ跡が3か所ある。何かの台紙に張り付けた跡と思われる。)

図3 ラングレ宛て自筆書簡の封緘方法



折り目から推測される封緘方法。

1. 用紙の上から2分の1の実線で山折りにする
2. 本文を区画 [c] [d] に書く
3. 本文ページを裏返して、用紙の左から2分の1の実線で山折りにする
4. 用紙の上から2分の1の実線で山折りにする
5. 表側に宛名を書く
6. 何らかの方法で宛名側の下部分と裏側の下部分を糊付けする

この封緘方法の推測が正しいとすると、開封の際に、糊付けされた部分が破り取られたと思われる。

本文、宛名の拡大図が図4、図5である。

図4 ラングレ宛て自筆書簡本文拡大図

Si vous voulez prendre la peine,
 Madame, de passer chez moi demain
 entre six heures et six heures et
 demie de l'après midi je causerai
 avec grand plaisir avec vous de vos
 affaires et de votre acquisition de
 maison a laquelle je vous aiderai
 volontiers autant que mes affaires m'en
 laisseront le tems.

S^t Simon

ce 12.

本文翻刻

Je vous voulez prendre la peine,
 Madame, de passer ch ez moi demain
 entre six heures et six heures et
 demie de l'apr es midi je causerai
 avec grand plaisir avec vous de vos
 affaires et de votre acquisition de
 maison a laqu'elle je vous aiderai
 volontiers autant que mes affaires m'en
 laisseront le tems.

S^t Simon

ce 12.

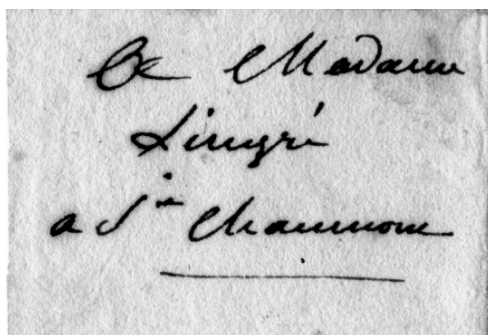
本文和訳

「奥様、もしご都合がよろしく、明日の午後6時から6時半までに私の家に来ていただければ喜んでお話させていただきます。あなたのお仕事や住宅購入について、仕事の時間の都合がつく限り、喜んでお手伝いさせていただきます。

サン = シモン

12日]

図5 ラングレ宛て自筆書簡宛名拡大図



宛名翻刻

A Madame
Lingré
a S^t Chaumont

宛名和訳

「ラングレ婦人様 サン・ショーモン」

本書簡について、サン = シモンの発信年月、発信場所（サン = シモンの住所）は残念ながら特定できない。またラングレ婦人の素性も不明である⁽³⁾。婦人の住所サン・ショーモン（St Chaumont）に関しては、パリのシテ・サン = ショーモン（Cité Saint-Chaumont）と思われる。（だが画像を見ると、最初の綴りは「St」ではなく、「Jt」の可能性もある。）

フランスにはショーモンの名がついた場所がいくつかある。(ア) フランス北東部、グラン・テスト地域圏オート＝マルヌ (Haute-Marne) 県ショーモン郡の都市ショーモン (Chaumont)。(イ) フランス中部、サントル＝ヴァル＝ド＝ロワール地域圏ロワール＝エ＝シェール県に属するコミューンであるショーモン＝シュル＝ロワール (Chaumont-sur-Loire)。いずれもパリから離れており、馬車を利用したとしても今日連絡して、明日面会するのは時間的にも物理的にも困難である。

ラングレ婦人宛ての書簡について、ビノシェとジケロ社 (binoshce et riquello) のカタログ『18世紀から20世紀の自筆稿と手稿 2018年2月7日水曜日』 (Autographes et Manuscrits du XVIIIe au XXe Siècle. Mercredi 7 février 2018) の55ページ「184 SAINT-SIMONIENS」には、


Considérant (Victor-Prosper) (1808-1894). L.A.S. (s.l.) 29 janv. 1838, 1 p. in-4. ... ; Enfantin (Barthélémy Prosper) (1796-1864) 22 documents. ... ; Saint Simon (Charles-Henri de Rouvroy [sic]) (1760-1825) L.A.S. à Madame de Lingré, (s.l. n.d.) « 13 pluviôse » 1 p. in-4. Adresse. Correspondance amicale, il propose son aide à une dame qui cherche visiblement à se loger.

の記載がある。2018年当時、サン＝シモン派のコンシデラン (Victor Prosper Considérant. 1808-93) とアンファンタン (Barthélemy Prosper Enfantin. 1796-1864)、そしてサン＝シモンの書簡類が販売されたことが分かる。このサン＝シモンのラングレ婦人宛て書簡は、「サン＝シモン... 署名つき自筆書簡、ラングレ婦人宛て (場所不明、年代無し)。「雨月13日」。全4ページのうち〔本文〕1ページ、宛名あり。親し気な書簡で、彼〔サン＝シモン〕は、明らかに住むところを探している女性に協力を申し出ている」という内容である。この書簡からサン＝シモンは、ラングレ婦人と何度か連絡を取り合っていたことが推測できる。

3. サン＝シモンのリウエ宛て自筆書簡

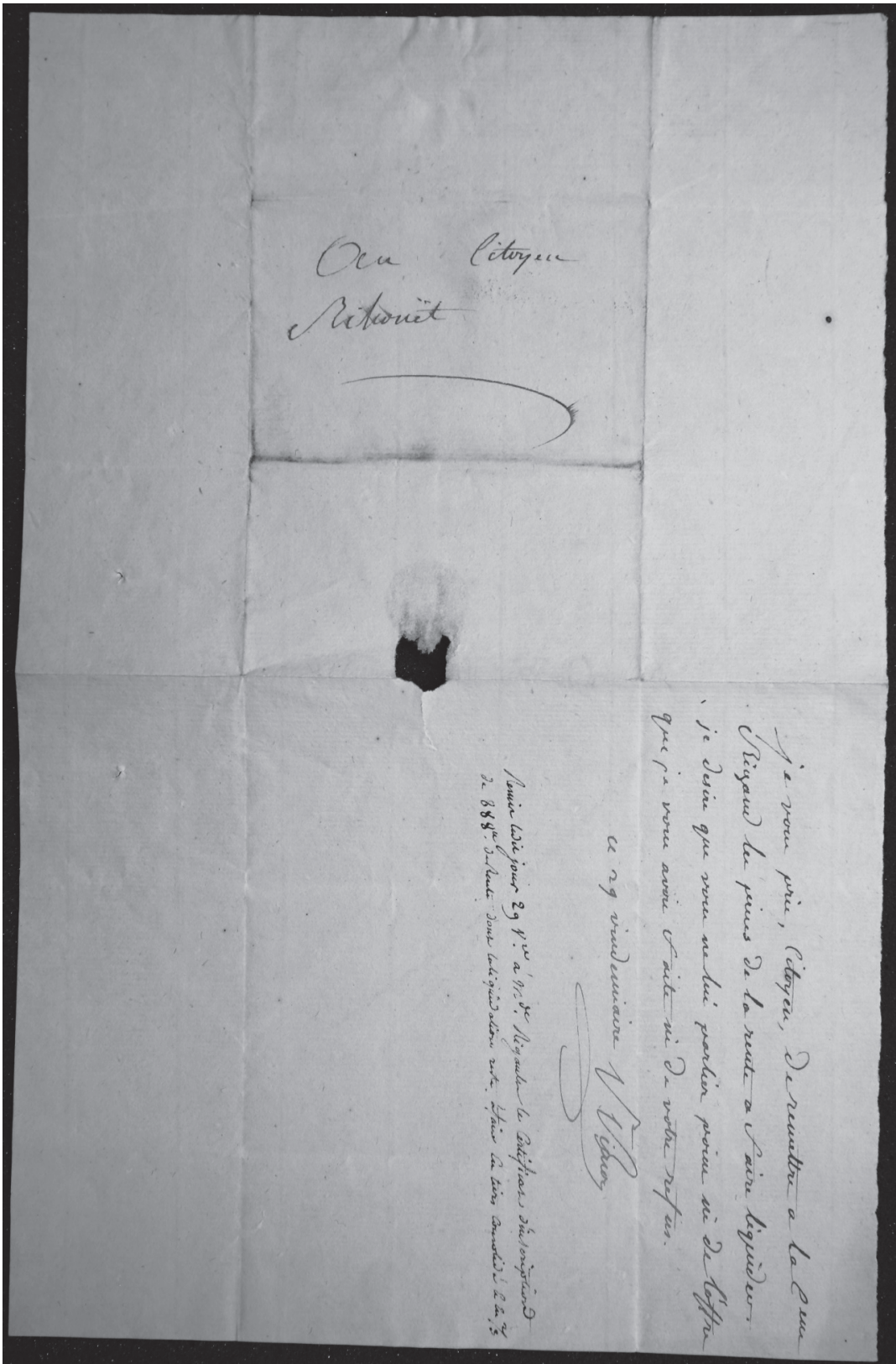
本書簡⑦は、上述のように2022年4月にパリの書籍商「ピノー」(Librairie Pinault) から入手した。本書簡の書誌は表3の通りである。

表3 サン＝シモンのリウエ宛て自筆書簡⑦の書誌

| | |
|----------|--|
| Title | [Letter, ce 29 vendémiaire, to] Citoyen Rihouët / St-Simon |
| Author | Saint-Simon, Claude Henri de Rouvroy (1760-1825) |
| Created | s.l. |
| Year | s.a. ce 29 vendémiaire |
| Language | French |
| Medium | 1 sheet ([1] p.) ; 20.2×31.5cm. folded 20.2×15.8 cm Address : 6.2×9.3 cm |
| Notes | Holograph signed. Paper watermarked Watermark : D&CBLAUW  |

宛名人リウエ (Philippe François Bonaventure Rihouët. 1755-1833.) は、サン＝シモンの事業協力者であったレーデルン伯爵 ((Redern, Jean-Frédéric-Sigismond-Ehrenreich, Comte de. 1761-1841)) の代理人を務めた。筆者が所有しているもう1通のサン＝シモンのリウエ宛て自筆書簡⑤については、前述のようにすでに検討してある⁽⁴⁾。本書簡⑦は、用紙二つ折り、全4ページのうち1ページに本文4行、サン＝シモンの署名がある。本書簡における署名 Simon の S の字が他の書簡の署名と異なっており、特徴的である。ウォーターマークは、D&CBLAUW である⁽⁵⁾。書簡の画像は図6である。

図6 リウエ宛て自筆書簡画像





サン＝シモンの自筆書簡3通(川又)

四七(一三五)

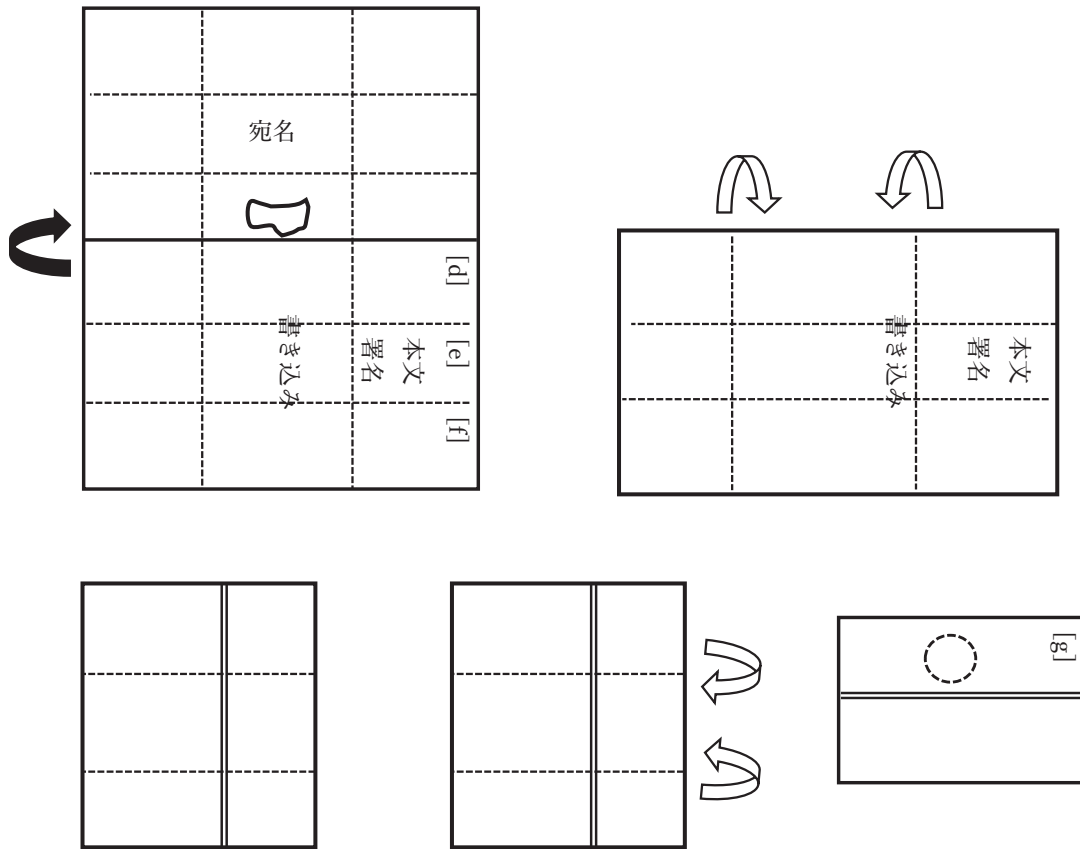
本書簡は1枚の用紙で、封をするために5回折られている。その折り目に従って18区画に分け、翻刻した本文、宛名などの位置を示したのが図7である。区画 [g] の点線部分 (○) は、裏面に糊付け跡があることを表している。

図7 リウエ宛て自筆書簡の折り目と本文、宛名の位置

| | | | |
|-----|---|-----|-----------------|
| [m] |  | [s] | [a] |
| [n] | 宛名 | [n] | [b] |
| [o] |  | [i] | [c] |
| [p] | | [j] | [d] |
| [q] | 書き込み | [k] | [e] 本文 署名 |
| [r] | | [l] | [f] |

次に折り目から推測される封緘方法を示したものが図8である。

図8 リウエ宛て自筆書簡の封緘方法



折り目から推測される封緘方法。

1. 用紙の上から2分の1の実線で山折りにする
2. 本文を区画 [d] [e] [f] に書く
3. 本文ページを上にして、用紙の左右から点線で谷折りにする
左から折り返した部分が右側から折り返した部分の上に来る
4. 用紙の点線で谷折りにする。
5. 裏側に宛名を書く

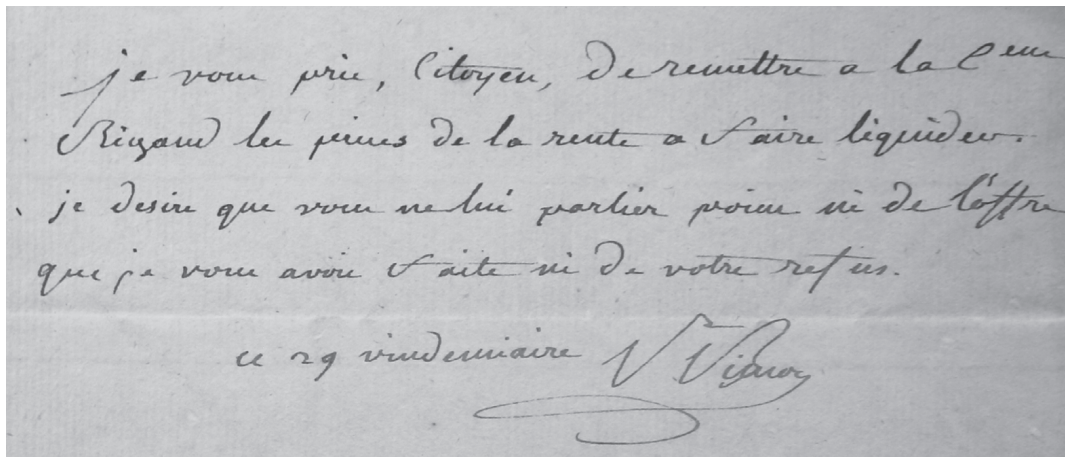
上側から折り返した用紙の上1枚裏側(図8の区画 [g] の裏側)と、

下側から折り返した部分を何らかの方法で糊付けをして封をする

この封緘方法の推測が正しいとすると、開封の際に、糊付けされた部分が破り取られたと思われる。

本文、宛名の拡大図が図9、図10である。

図9 リウエ宛て自筆書簡本文拡大図



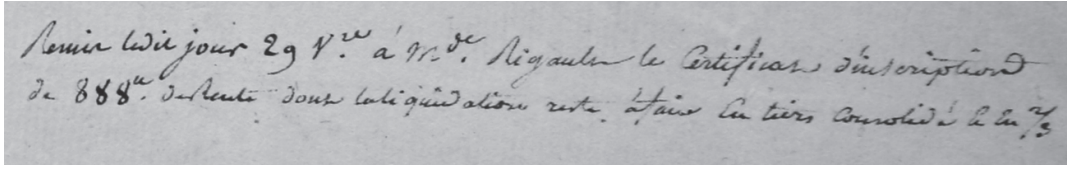
本文翻刻

Je vous prie, Citoyen, de remettre a la Cette
Rigaud les primes de la rente à faire liquider.
Je desire que vous ne lui parlier point ni de l'offre
que je vous avois faite ni de votre refus.
ce 29 vindemiaire S^t Simon

本文和訳

市民〔リウエ〕様、清算される地代の割増金をこのリゴー氏に返
還していただけますようお願いいたします。
私があなたに申し出たことも、あなたが断ったことも、彼に話し
てほしくはありません。
ぶどう月29日 サン＝シモン

図10 リウエ宛て自筆書簡書き込み拡大図



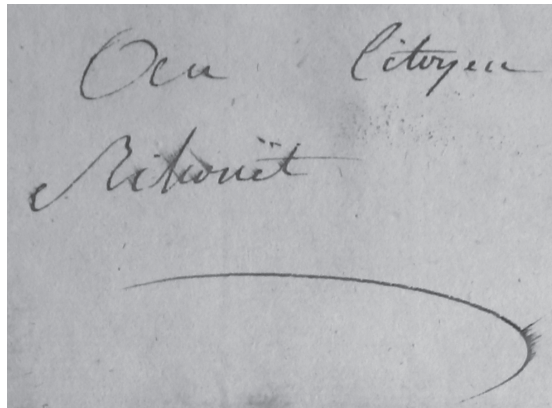
書き込み翻刻（サン＝シモンの筆跡とは異なる）

Remir ledit jour 29^{ve}[?]. à M^{de}. Rigault le Certificat
d'inscription
de 888^{ce}[?]. des leute dous la liquidation reste à faire la
tiers consolid à le^[?] en^[?] 2/3

書き込み和訳

この書き込みの筆跡は、サン＝シモンのものではない。翻刻できない部分があるため、和訳できない（上述ぶどう月29日、リゴー氏に888？の登録証書を提出し、残りの清算が第三者によって3分の2に統合される、の意か）。本文と書き込みでは、リゴーの綴りが異なっている。

図11 リウエ宛て自筆書簡宛名拡大図



宛名翻刻

Au Citoyen
Rihouët

宛名和訳

「市民リウエ様」

本書簡のリウエの綴り (ë、トレマ) は、日本大学図書館法学部分館が所蔵するサン＝シモンのリウエ宛て自筆書簡①では e になっている。筆者所有のもう 1 通のリウエ宛て自筆書簡⑤を確認したところ、トレマになっている。サン＝シモンはレーデルンと資産分割で対立しており、本書簡もそれに関連する資金の支払いをリウエに求めていると思われる。本文に登場するリゴアの素性は不明である⁽⁶⁾。

4. サン＝シモンのボマール宛て自筆書簡

本書簡⑧は、上述のように2022年7月にパリのギャラリー「アーツ・アンド・オートグラフィス」(Arts & Autographs) から入手した。本書簡の書誌は表4の通りである。

表4 サン＝シモンのボマール宛て自筆書簡⑧の書誌

| | |
|----------|---|
| Title | [Letter to] Monsieur Bommairt / St-Simon |
| Author | Saint-Simon, Claude Henri de Rouvroy (1760-1825) |
| Created | s.l. |
| Year | s.a. |
| Language | French |
| Medium | 1 sheet ([1] p.) ; 18.2×29cm. folded 18.2×14.5cm Address:5.5×8.2 cm. |
| Notes | Holograph signed. |

サン＝シモンが友人のボマール (Monsieur Bommairt) に宛てた書簡で、用紙二つ折り、全4ページのうち1ページに本文4行、サン＝シモンの署名がある。用紙にウォーターマークはない。

書簡の画像が図12である。

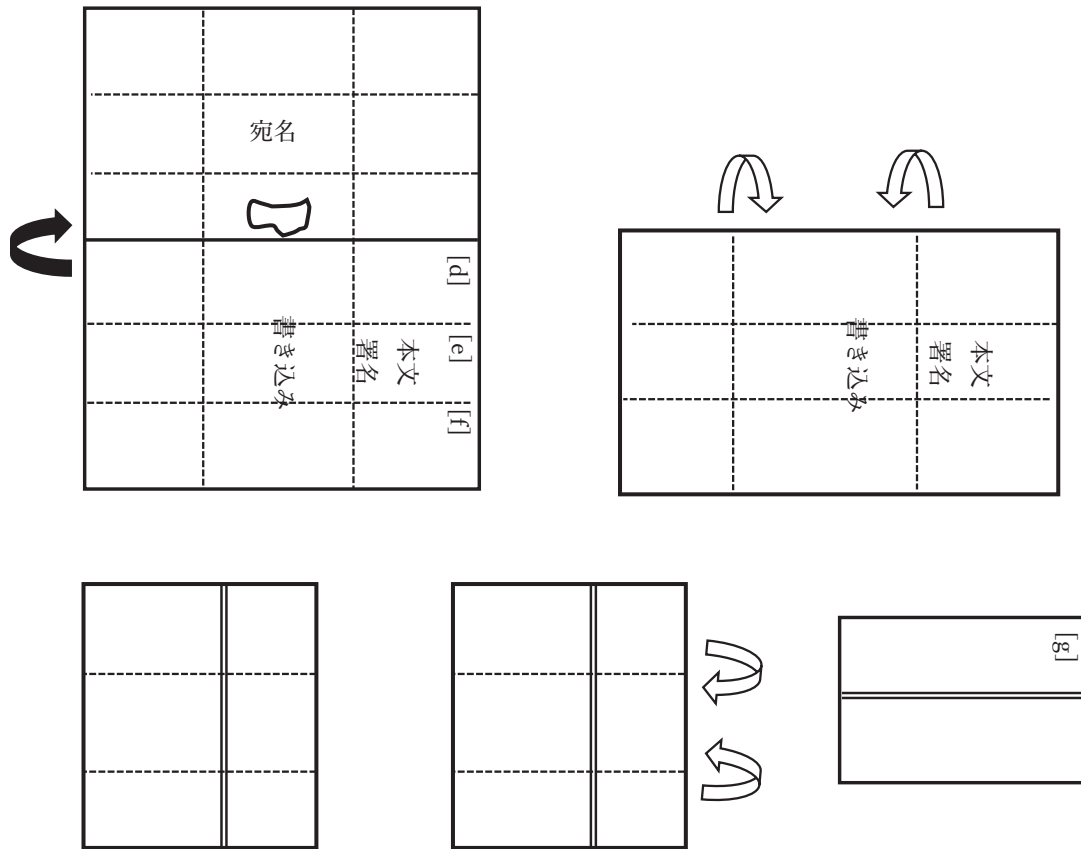
書簡は1枚の用紙で、封をするために5回折られている。その折り目に従って18区画に分け、翻刻した本文、宛名などの位置を示したのが図13である。区画 [g] の点線部分 (○) は、裏面に糊付け跡があることを表している。

図13 ボマール宛て自筆書簡の折り目と本文、宛名の位置

| | | |
|------|------|----------|
| [m] | [g] | [a] |
| | ○ | 書き込み |
| [n] | [h] | [b] |
| | 宛名 | |
| [o] | [i] | [c] |
| 書き込み | 破れ目 | |
| [p] | [j] | [d] |
| | 書き込み | 本文 署名 |
| [q] | [k] | [e] |
| | | |
| [r] | [l] | [f] |
| | | |

次に折り目から推測される封緘方法を示したものが図14である。(図13の一点鎖線は封緘には関係ない、後世の誰かによる折り目と思われる。)

図14 ポマール宛て自筆書簡の封緘方法



折り目から推測される封緘方法。

1. 用紙の上から2分の1の実線で山折りにする
2. 本文を区画 [d] [e] [f] に書く
3. 本文ページを上にして、用紙の左右から点線で谷折りにする
左から折り返した部分が右側から折り返した部分の上に来る
4. 用紙の点線で谷折りにする。
5. 裏側に宛名を書く

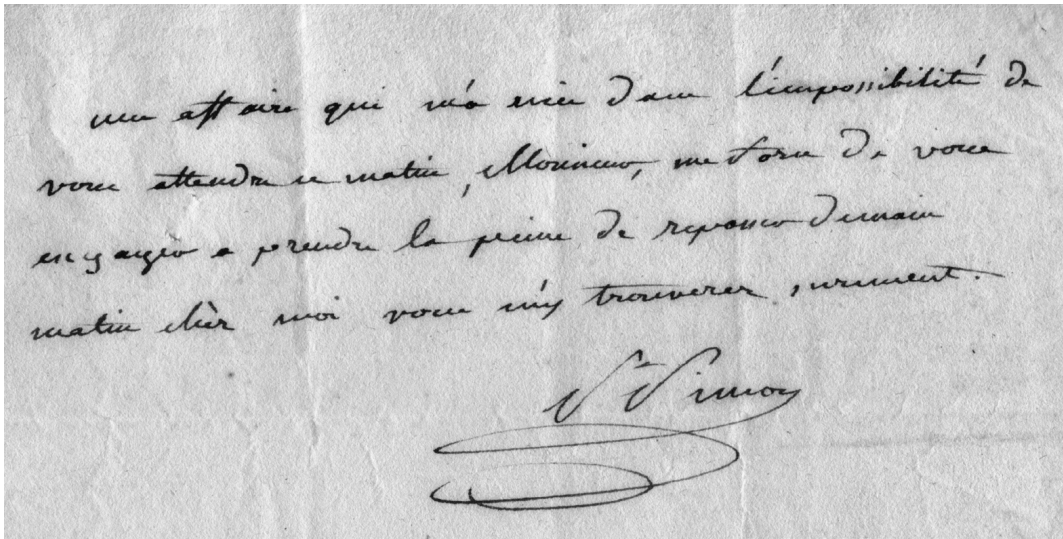
上側から折り返した用紙の上1枚裏側（図13の区画 [g] の裏側）と、

下側から折り返した部分を何らかの方法で糊付けをして封をする

この封緘方法の推測が正しいとすると、開封の際に、糊付けされた部分が破り取られたと思われる。

本文、宛名の拡大図が図15、図16である。

図15 ボマール宛て自筆書簡本文拡大図



本文翻刻

une affaire qui m'a mis dans l'impossibilité de
vous attendre ce matin, Monsieur, me force de vous
engager a prendre la peine de repasser demain
matin chez moi vous m'y trouverez surement.

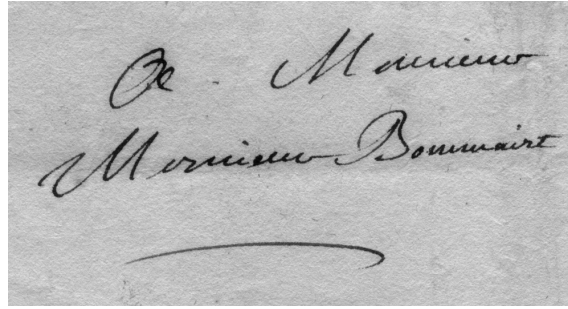
S^t Simon.

本文和訳

今朝はどうしてもお目にかかれなかった件についてです。明日の朝は是非とも私の家にお越しく下さい。あなたはそこできっと私が見つかります。

サン = シモン

図16 ボマール宛て自筆書簡宛名拡大図



宛名翻刻

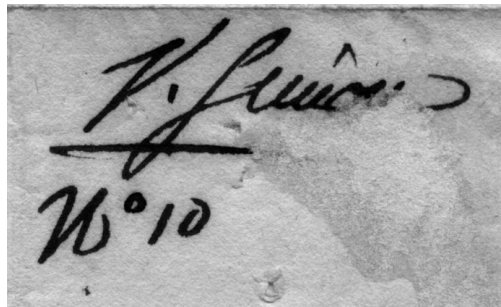
A Monsieur
Monsieur Bommairt

宛名和訳

「ボマール様」

2か所の書き込みの拡大図が図17、図18である。

図17 ボマール宛て自筆書簡書き込み拡大図



書き込み翻刻（2行、サン＝シモンの筆跡とは異なる）

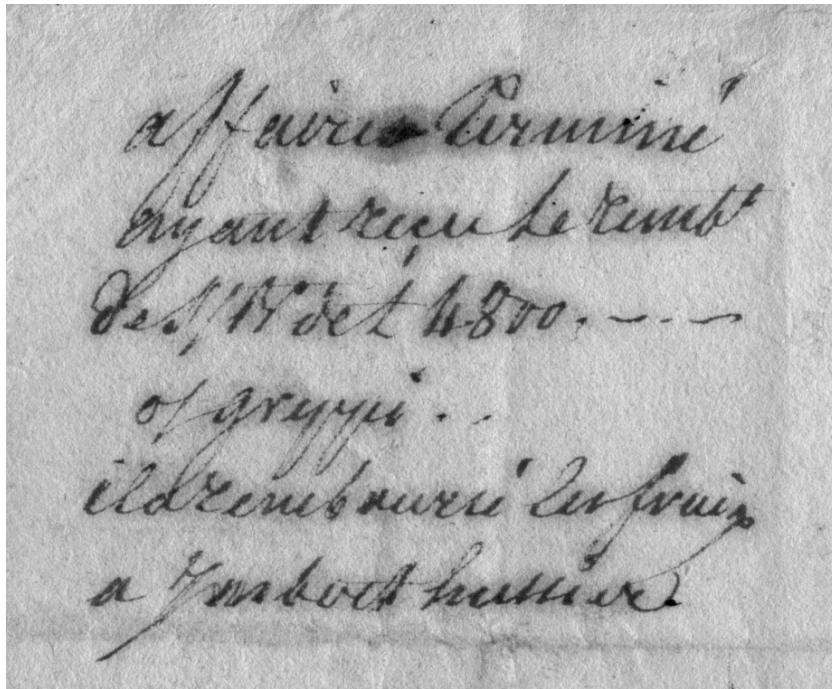
S. Simon
 N° 10

書き込み和訳

サン = シモン

10番

図18 ボマール宛て自筆書簡書き込み拡大図



書き込み翻刻（6行、サン＝シモンの筆跡とは異なる）

affaire Terminé

ayant reçu le remb^t [remboursement の略]

de ??? de L 4800 - — - —

et Greppi.

il a remboursé les frais

a ???????? huissier [?]

書き込み和訳

翻刻が完全ではなく、和訳は困難である。販売業者「アーツ・アンド・オートグラフィス」からは、「Une note au verso indique qu'il s'agissait d'un remboursement ou d'un billet à ordre avec recours à un huissier.」

「裏面のメモは、それが執行官を頼った払い戻しまたは約束手形であったことを示しています」との情報が得られている。

本書簡は、サン＝シモンがボマールに再訪を申し入れる内容となっている。本書簡も、サン＝シモンの発信日、発信場所、そしてボマールに関する情報は明らかではない⁽⁷⁾。

この書簡は、パリのオークションハウス・ピアサ (Piasa) のカタログ『歴史的な書籍、書簡、自筆手稿、文書。2010年5月4日火曜日と5日水曜日』(Livres Lettres et Manuscrits Autographes Documents Historiques. Mardi 4 et Mercredi 5 Mai 2010) の122ページ581番に次のように掲載されていたものである。

“Claude-Henri de Rouvroy, comte de SAINT-SIMON (1760-1825) ... L.A.S., à M. Bommairt ; demi-page petit in-4, adresse.” (サン＝シモン ... ボマール氏宛て自筆署名書簡、全4ページのうち〔本文〕半ページ小、宛名あり)

12年後、アーツ・アンド・オートグラフィスを介して、本書簡は海を渡り、日本に到着した。

5. おわりに

今回取り上げたサン＝シモンの自筆書簡によって、サン＝シモンが、ラングレ婦人に便宜を図っていたこと、リウエに地代の清算を要求していたこと、そしてボマールに再訪を申し入れていたことが明らかとなる。サン＝シモンの研究にとってこれらの事実を明らかにすることができた意義は大きい。さらにこの自筆書簡研究によって明らかになった点は次の通りである。

- 1) 表1の書簡①で用いられている用紙のウォーターマークはプロ・パトリア (Pro patria)、④⑦のそれは D&CBLAUW、⑤のそれはユリ (Lily) となっており、サン＝シモンは様々なウォーターマークの用紙を書簡に用いていた。

- 2) 表1の④⑦は同じ用紙であるが、①⑤⑥⑧の4通はそれぞれ異なる用紙（色見、大きさ、厚み）である。サン＝シモンは、ウォーターマークのない用紙も種々、書簡に用いていた。
- 3) 表1の①と⑤の封緘方法は同じである。
- 4) 表1の⑦と⑧の封緘方法は同じである。
- 5) 表1の④と⑥の封緘方法は異なっており、①⑤そして⑦⑧ともに異なっている。

前稿においても指摘したが、サン＝シモンの自筆書簡の本格的研究はまだまだの状況である。森博は、サン＝シモン関連資料の所蔵先を明らかにしている（森、第1巻、pp.51-67）。今後、法学部分館の資料も含めて、各所蔵機関の資料の比較研究が進展することを期待したい。

注

- (1) 日本大学図書館法学部分館の蔵書献索（詳細献索）において、文庫区分から「サン＝シモン・コレクション」を選択して検索すると417件が表示される。
- (2) 日本大学図書館法学部分館、著名学者書簡コレクション（The famous scholar's letter collection）、サン＝シモン書簡一覧
<https://www.law.nihon-u.ac.jp/library/collectionpack/saint-simon/index.html>
- (3) ラングレ婦人に関する有力な情報はない。森博編・訳『サン＝シモン著作集』の索引にもその名は見つからない。
- (4) サン＝シモンのリウエ宛て自筆書簡⑤書誌（川又、p.13）

| | |
|---------|---|
| Title | [Letter, le 23. f[loré] al. an 7, to] Citoyen Rihouët / St-Simon |
| Author | Saint-Simon, Claude Henri de Rouvroy (1760-1825) |
| Created | s.l. |
| Year | le 23. f[loré] al. an 7 [12 May 1798] |
| Medium | 1sheet ([1] p.) ; 18.4×24cm. folded 18.4×12 cm Address : 7.3×12 cm |
| Notes | Holograph signed Paper watermarked Watermark : Lily |

- (5) このウォーターマーク“D&CBLAUW”がついた用紙は、Nihon University College of Law Library's Saint-Simon Collection. Manuscripts of Saint-Simon（日本大学法学部図書館サン＝シモン・コレクション。サ

ン＝シモンの手稿)、カタログ番号354番、[Note on the 18th century philosopher, Condorcet / Saint-Simon] でも使用されている(図書館請求記号 S-S 354)。しかし、図書館が所蔵している資料 S-S 354の用紙の厚みは、本書簡の用紙よりも薄い。一方、筆者が所有しているサン＝シモンのペルゴー宛て書簡④と本書簡は、ウォーターマークと用紙の厚みが同じである。

このウォーターマーク“D&CBLAUW”は、オランダの製紙業一家のものであるらしい。

サン＝シモンのペルゴー宛て自筆書簡④書誌(川又、p.6)

| | |
|---------|--|
| Title | [Letter, le 12 Avril 1792, to] Monsieur Perregaux Banquier / Saint-Simon |
| Author | Saint-Simon, Claude Henri de Rouvroy (1760-1825) |
| Created | Peronne |
| Year | 1792 |
| Medium | 1sheet ([1] p.) ; 20×31.4cm. folded 20×15.7cm Address : 6.3×9.8 cm |
| Notes | Holograph signed Paper watermarked Watermark : D&CBLAUW Stamp : 75 [?] PERONNE [black] Sealing wax : SSS [?] [red] |

- (6) リゴーに関する有力な情報はない。森博編・訳『サン＝シモン著作集』の索引にもその名は見つからない。
- (7) ボマールに関する有力な情報はない。森博編・訳『サン＝シモン著作集』の索引にもその名は見つからない。

参考文献

川又祐「サン＝シモンのペルゴー宛てとりウエ宛て自筆書簡」『日本法学』(南部篤教授退職記念号)、85(4)、2020年、1-19。KAWAMATA Hiroshi, “Saint-Simon. Two Autograph Letters signed to Perregaux and Rihouët.” in : *NIHON HOGAKU (Journal of Law)*. Vol. 85 No. 4. March 2020. pp. 1-19.

日本大学図書館法学部分館、著名学者書簡コレクション (The famous scholar's letter collection)、サン＝シモン書簡一覧

<https://www.law.nihon-u.ac.jp/library/collectionpack/saint-simon/index.html>

森博編・訳『サン＝シモン著作集』全5巻。恒星社厚生閣、1987-1988年。

binoche et giquello, *Autographes et Manuscrits du XVIIIe au XXe Siècle*. Mercredi 7 février 2018.

chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.

gazette-drouot.com/telechargement/catalogue?venteId=89296

“D&CBLAUW”

<https://zaansepapiergeschiedenis.nl/historie/familiebedrijven/blauw-dirk/>

Nihon University College of Law Library's Saint-Simon Collection. Manuscripts of Saint-Simon. 2019. (日本大学法学部図書館サン＝シモン・コレクション。サン＝シモンの手稿)

chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.law.nihon-u.ac.jp/library/pdf/345-364.manuscript.catalog.vers.6.pdf

Piasa, *Livres Lettres et Manuscrits Autographes Documents Historiques*. Mardi 4 et Mercredi 5 Mai 2010.

chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.bibliore.com/wp-content/uploads/catalogue/pdf/cat-vent_drouot4-05-10-cat.pdf

Saint-Simon Three Autograph Letters signed to Madame Lingré,
Citoyen Rihouët and Monsieur Bommairt.

KAWAMATA Hiroshi

Claude Henri de Rouvroy Saint-Simon (1760-1825) is a very famous social thinker of 18th to 19th century. I have got his autograph letters from 2019 to 2022. I have introduced his autograph letters signed to Perregoux and Rihouët in the *NIHON HOGAKU (Journal of Law)*. Vol. 85 No. 4. March 2020. pp. 1-19. This time, I introduce his autograph letters signed to Madame Lingré, Citoyen Rihouët (1761-1841) and Monsieur Bommairt. They are unpublished. The identities of Madame de Lingré, Monsieur Bommairt and Rigaud (or Rigault) are almost unknown, excluding Citoyen Rihouët. I transcribe the 3 letters and translate them into Japanese. These letters make it clear that Saint-Simon was doing favours for Madame Lingré, asking Citoyen Rihouët to settle the rent, and requesting Monsieur Bommairt to visit again. These letters are valuable for the research on Saint-Simon.

